

教科名【社会】

児童の実態

- ・身近な社会の事物や事象について興味・関心をもっている児童が多いが、学年が上がるにつれて興味・関心をもちづらくなっている。
- ・課題を解決したり、選択、判断する力、思いや考えを表現する力が十分とはいえない。
- ・資料を読み取る力が十分とは言えない。
- ・自分の考えから、他の児童の話聞き、自分の考えと比較したり考えを振り返ったり、確かめたりする力が十分とは言えない。

授業革新推進に向けて

- ・児童に身近な社会的事象を「つかむ」段階で取り上げることにより、興味・関心を高めさせる。高学年でも身近に感じさせるよう教材研究を行う。
- ・既習学習を活用し、似ているところ、違うところなど事象を比較させ、自分の考えをまとめる活動を積み重ねる。また、グループ学習用のホワイトボードを活用し、友達の考えと比較したり、自分の考えを伝えたりして、より深く事象を考えさせる場を設ける。その活動を通して思考力・判断力・表現力を育てる。
- ・どの学年でも資料を読み取る活動を丁寧に行う。
- ・具体的な事象を調べる活動や考える機会を多くとり、学習の意欲を高める。